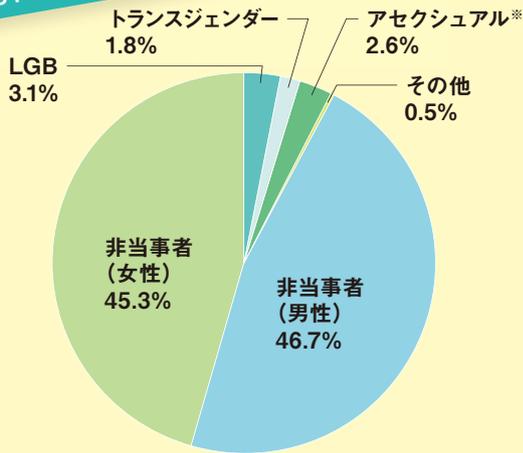


図3 性的マイノリティ当事者 (LGBTやアセクシュアルの方)の割合



※アセクシュアル…他者に対して恒常的に性的欲求を抱かないこと。無性愛と訳される。

参考：日本労働組合総連合会「LGBTに関する職場の意識調査」(平成28年)

リンク：<https://www.jtuc-rengo.or.jp/info/chousa/data/20160825.pdf>

図2 性の様々な要素

①身体の性

一般的に戸籍に記載されている性別を指しますが、性分化疾患※の人なども存在しており、実際の身体の性は、単純に男女には二分できません。

②心の性(性自認)

「自分をどんな性別だと思うか」です。身体の性と一致しない人(トランスジェンダー)や、男女のどちらでもないと思う人もいます。

③好きになる性(性的指向)

「どの性別が恋愛対象になるか」です。異性を好きになる人のほか、同性を好きになる人(レズビアン、ゲイ)や、男女両方を好きになる人(バイセクシュアル)などがいます。

④表現する性

服装や仕草、言葉づかいなどです。物腰のやわらかい男性や、ユニセックス(中性的)なファッションを好む人など、人によってそれぞれです。

※性分化疾患…染色体、生殖腺、性器などが、男性型/女性型に分化しておらず、先天的に非定型である状態。

ナースシップ証明書の交付制度を始める自治体が現れました。また、企業も続々と対応策を講じており、就活・労働環境も徐々に変化しています。社員が望む性別の制服を支給する企業や、性別転換手術のための休暇制度を設ける企業も登場しました。性的マイノリティの方向けのキャリアイベントなども開催されています。

誰もが過ごしやすい社会に向けて

LGBTの人は、差別や偏見によるハラスメントから身を守るためセクシュアリティを伏せていることも多く、その存在は見えにくくなっていると言われています。しかし、最近の調査によると、日本にはおよそ13人に1人の割合で性的マイノリティ当事者がいます(図3)。

当事者はしばしばLGBTを悪いことであるかのように感じてしまい、親や友人にも言えず、肉体的・精神的に苦しみ、最悪の場合は自死へ追い込まれてしまうこともあります。多

様な性の人も暮らしやすい社会にするためには、何が必要でしょうか。

当事者にとって必要なことは、情報収集、信頼できる相談先の確保などが挙げられます。右ページで紹介しているような支援団体のホームページには、LGBT当事者や周囲の人などに役立つ情報がたくさん紹介されています。こうした団体が開催するイベントへの参加や、相談窓口の利用も、困りごとを解消する第一歩となるでしょう。

そして、当事者でない人は、性のあり方が十人十色だということを理解し、普段から言動に気をつけることが大切です。「男だから」「女のくせに」などと、望まない役割を強制される社会は息苦しく、元来、人がもっている能力の発揮を妨げることにもなりかねません。

SNSなどで多様な性を紹介している記事をシェアしたり、身近な人と話し合ってみてはいかがでしょうか。

こうした取組みを通じ、一人ひとりが気づき、声をあげる

パステル おすすめ本

いろいろな性って なんだろう?

監修:渡辺大輔 出版社:ポプラ社

内容:様々なセクシュアリティを知るための導入編として、いろいろな性・いろいろな生き方をして いる方たちの声を紹介されている一冊です。



ことによってLGBTへの理解が少しずつ進歩していくことでしよう。多様性を認める社会のために、あなたも今日からできることを始めてみませんか。

▶ エセナおおたの図書コーナーにて貸出しています。